

## まちづくり懇談会議事録

日 時：令和 3 年 11 月 1 日（月）14：00～15：37

場 所：滝下会館

出席者：6 人

### 1. 開会

### 2. 町長挨拶

※配付資料確認および日程説明

### 3. 懇談

（1）第 7 次総合計画の策定について（別紙 1・2 参照）

（2）自由懇談

### 4. その他（情報提供）

（1）国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（別紙 3 参照）

### 5. 閉会

#### 《懇談内容》

##### 【自由懇談】

町民：資料の中で人口推計が右下がりになっているが、町の歳入で、町税のところあまり減っていない。人口が減っているのに、こんなに減らないものなのか。それとも、企業の法人税などを見込んで減らしていないのか。また、令和 16 年までしか歳出は書いていないが、人口が 12,000 人から 8,500 人まで減っている中で、歳入の町税は 100 万円単位で、2,000 万円ぐらいしか入っていない。

まちづくり総括：確かに、人口が減少していけば税収にも影響が出る。今回の試算に当たっては、税収の年齢ごとの部分について、例えば生産年齢人口は減少していくが、年齢ごとの今の税収を実績ベースに、人口ごとに算出していくと、そこまで大きな減少ではなく、人口のグラフの右肩下がりよりは、若干緩やかな減少幅になっていく。また、今後の経済動向で国が示している、成長率も若干参考にしながら算出している。人口減少よりは緩やかに税収が落ちる想定も含め、算出している。

町民：実情として比較にならないのかもしれないが、お隣の夕張市は結局人口が減っている。診療所の問題などを色々抱えていて、夕張リゾートは倒産し、マルハニチロは撤退した。このように人口が減れば、必然的に企業はいなくなっていく。だから皆さんは、必死になって人口減少を食い止めようとしている。税収については、1 人 1 人の税収もそうだが、法人税がなくなってきた場合、やはり町としては死活問題だ。そこを押さえずに、個人の税収だけで大丈夫なのか。

町長：確かに、人口減少に伴って税収が目減りしていく影響はあると思う。ただ、町の財政

計画はかなりシビアで、相場的な計画ではない。財政計画と実施事業の計画とが、ぴったり整合するような形で組み立てているので、私としてはこの計画自体、かなりシビアに押さえていると思う。北海道や他の町の総合計画を見たが、希望的観測による部分がかなり上積みされていて、税収などが減らないような作り方をしている町もある。町の場合、第6次計画以前から非常に厳しい財政状況の時期があって、町民の皆さんにご苦勞をおかけした。公共施設の使用料金を上げる、税金を上げる、水道料金を上げるなど、本当にご迷惑をかけ、苦勞した時期がある。そして、我々町職員は、10年ほど人を採用せずに、人件費をかなり抑え込んだ。歳出面と歳入面の確保を両方やっていたが、1番の危機的な状況だったのは今から約20年前、平成12年からちょうど小泉改革があって、三位一体の改革で国の交付金額を大きく落とされた。それからの10年間は、本当に町民の皆さんと死に物狂いになって、なんとか財政危機を乗り越えてきた。そういう経験をしているので、過剰な数字の見方はほとんどしていない。現実路線でしっかり計画を立て、一つ一つの数字に根拠付けをして作っている。これからの経済の動向には、心配な部分はあるが、なんとか計画を維持できるように、我々も色々なことを頑張っていきたい。冒頭の挨拶で話した通り、イワタニ・ケンボロー株式会社が新しく入ってきたり、工業団地にはN-GRITS株式会社が来たり、まだ着工されていないが、バイオマスの中間土場ができたりと、ここ2、3年で、かなり企業が来てくれるようになった。企業誘致もきちんと進めるが、財政推計の基礎となるのは人口なので、増やすことは無理でも、いかに減少幅を抑えていくかに力を注ぎたいと思っている。あまり過大な見方をしないように、これからも計画を組み立てていきたい。貯金は約14億円から少しずつ下がっていくが、期間内に全部使ってしまうわけにはいけないので、将来の子供達にきちんと残し、借金は世代間が負担し、当然、財源もきちんと残していくことで、未来に繋げていきたい。令和5年から12年までの8年間に必要だと思われる事業などがあれば、町民の皆さんから提言していただきたい。それらを計画に入れ込んだ時に、それをやるなら何かを見直さなければ駄目だという提案のほか、ずっと継続してきた事業や栗山赤十字病院の建て替えなどの計画が全部入っているので、それ以外の新たな提案が今後皆さんから出されれば、当然新たに計画に入ってくることになる。そうするとまた貯金を崩してそれをやるのか、他の事業は見直すのか、などの全体調整をしながら、2年かけてこの第7次総合計画を作りたい。

町民：栗山駅南交流拠点施設の多目的ホールだが、地域おこし協力隊の新たに入った2人が私の所に来て話をしてくれたので、以前から知っていたが、例えば料理教室やDIYの工房が実施されるけれども、誰でも持って行って、誰でも出品できるという、町の直売所がない。農協がそういった形で動いていないのかもしれないが、これだけ大きいスペースなので、作れないかなと思う。そのスペースからも管理手数料として、10%か、15%か、20%かは分からないが、出品した人からお金を得ることができる。そういうものも良いのではと思うが、どうだろうか。

町長：ぜひ、事業で展開していきたいと思う。本当に敷地は広いし、中でやることによって、雨風を凌げる時がある。天気の良い日は外でも、市場のようなものを事業展開する意見があるので、ぜひこの新しい組織でお願いしたい。

町民：地域おこし協力隊の方にも話をしたが、道の駅を作るとなると、どうしても24時間開けなければいけないトイレを整備するなどの規約がある。かなりお金がかかることなので、地域活性化ということであれば、青空市場のような形で開催できるところがあって

も良いのではないかと思います。そうすると、例えば老舗祭りなどの、栗山のお祭りに併せてオープンしておけば、町外から来た方に立ち寄っていただける。さらにそれが宣伝効果になり、栗山の農産物を知っていただける機会になると思う。

町長：ここ数年、私が町長に就任してから、台風、フラッグアウト、今回のコロナなどの色々な問題があって、そのたびに、農協の青年など若い方を中心に、色々な方々が立ち上がってくれて、青空市場などをやっていただけた。そこで皆が買いに来てくれることが分かって、青年部の方々がすごく自信がついたという話も聞いている。常設ではなく、土日にトラック市などをやって、他の町に誇るぐらいの種類がある、町の農産物のPRも兼ねてできればと思う。また、おそらくこの交流拠点施設は、道の駅の機能を持たすところではないと考えている。もし将来道の駅を作るとしたら、国道234号線の栗山公園などに、きちんとしたものを作るべきと思っている。

町長：栗山赤十字病院については前にも説明したが、令和8年4月の開院のため、年明けの1月に東京の赤十字病院本社に行くが、そこで設計会社のプロポーザルと入札があるので。そこで設計会社が決めれば、そこから約1年ほどかけて細かい仕様を決め、それから工事に入るので2年かかるとして、早ければ令和7年中に開院できるかという状況だ。栗山赤十字病院に対するお話は色々あるが、町に総合病院があるのとないのとは相当違うし、栗山赤十字病院にも、これからは今までのような病院経営だけやっていけば良いということではなく、入退院調整から訪問看護まで、色々なことを栗山赤十字病院が拠点となって、町の地域包括的な福祉医療を担っていく存在になっていただきたいと話を進めている。私はこの新病院の開院を契機に、町の栗山赤十字病院自体が大きく変わっているし、また、変わっていただければならないと思っているが、町民みんなで良い病院にしていければ良いと思う。皆さんは日赤病院に行かれているだろうか。私は一昨日、人間ドックで引っかかってしまい、再検査に行ったが、午前9時前に50人以上、内科の前の椅子が埋まるぐらいの患者がいた。しかし、将来の医療需要動向というものがあるが、患者数はどんどん減っていく見込みになっている。人口減少に関連して、栗山赤十字病院には136のベッドがあるが、今は8割しか稼働していないので、100ベッドあれば大丈夫だということになる。建て替え後は100ベッドを作るが、医療需要のこれからの動向をによると、約70ベッドで良くなる。単純に人口減少が進むと、今100ベッドで作れば30ベッド余ることになる。ベッドが余らないように、これから栗山赤十字病院と連携して、営業活動しなければいけない。今は長沼町からバスが迎えに来て、町民の方が長沼町に行くということになっている。これから病院自体が良くなるので、町民の方はなるべく栗山赤十字病院に行き、手術はできないかもしれないけれど、ある程度の医療はきちんと受けられるというような、病院になっていけば良い。

町民：病院への送迎はゆくゆくは考えているのか。

町長：今は町営バスが走っているので、ある程度栗山赤十字病院を経由するバスを利用するほか、町場はコミュニティバスが中里や富士の方から、湯地の方まで回っていくので、それらを利用していただくことを考えている。

町民：栗山赤十字病院は、車椅子の方まで家族が連れて来ていた。一般の人は公共交通機関を使えばいいかもしれないが、重度の心身障がい、身体障がいなどを抱えている人たちのケアだけでもしてあげると、家族の負担は減るのではないかな。最近栗山赤十字病院には行っていないが、以前行ったときに感じた。また、私の母親が養護老人ホームに入っている

が、栗山赤十字病院などに通わせていただいている。施設の人に送迎してもらっているが、もし一緒に暮らしていれば、送迎などをしなければいけないので、ある程度、特定の人たちに対するケアはした方がいいのではないかと思います。

町長：国の主導により、これからデジタル化が加速度的に進むと思う。DX と言って、デジタルが普及していく中で、病院に行かなくても医療機関での診察ができるように、これから急速に発達していく。国がどのような政策を出してくるかはまだはっきりしていないが、もうすでに行われているものとして、医療機関に機械を入れ、マイナンバーカードなどを活用して本人確認を行い、スマートフォンなどで医師と患者が遠距離でもしっかり診療できるようにしている。この遠隔医療が実現するまで送迎は必要かもしれないが、やがて普及されていく世の中になると思う。滝下地区のように、町場まで行くとっても、車があってもかなり時間がかかるので、この遠隔医療の重要性は増大する可能性がある。国と自治体とが連携して、遠隔医療の仕組みを作る必要が出てくるだろうと思う。そういう設備を入れるのに病院は費用がかかるようなので、今度の第 7 次の総合計画の中に盛り込まれてくるかもしれない。これから 2 年かけて第 7 次総合計画を作るので、全体的な仕組みはその間に決まると思う。例えば、国からある程度支援があるはずなので、残った医療機関の負担分を少し自治体が支援するなど、国から色々な方針が出されると思う。

町民：車を運転できる間はどこでも行けるが、車を運転できなくなれば近くの病院に通う方が良い。現在だったら、車があったら隣の病院に行ってみようかなと思ってしまう。栗山赤十字病院でも大丈夫という雰囲気作り、実績を上げていってもらいたい。町営バスは、私たちが運転できなくなるかもしれないので、まだまだ存続してほしい。

町民：女子硬式野球部はできるのか。

教育長：硬式野球については、私が就任してから札幌市の新陽高校などとの話を進めて、内情や経営方法など、教育分野を主に走り回って、道教委との調整をしている。急速にピッチを上げて行っているが、ちょうど各中学校で、全国的に秋の三者面談を行っている。その結果を受けて内容を見てみないと、入学するかしないかの推移や、具体的に何人集まりそうかという話はできない。町の青年会議所などを中心に、色々なパンフレットなどを作っていたけど、例えば先日のエキシビジョンマッチや、砂川市でやっていた交流大会などについて、各地域の教育委員会を通じて、パンフレットを回してもらっている。ただし、町民皆さんが思い描いている、テレビで見えるようなスタンドがびっちり埋まるという状況にはない。しかし、栗山高等学校に女子野球部ができ上がるみたいだという話は、少しずつ浸透してきていると考えている。先日、エキシビジョンマッチを行った後で、駒大苫小牧の監督や、札幌市のクラブチームの GM と監督などに、南部公民館で交流をしていただき、1 からチームを積み上げていった皆さんのお話を積極的に聞き始めようという段階に来了。これだけ女子野球部創設の動きがどんどん増えたのは、男子野球やサッカーなど他の競技も含め、地元を中心とした子供達、近隣の子供達を中心に、栗山高等学校を活発にしていかなければならないということが中心だからだと思う。全国的に呼びかけても、やはり資金力のある高校にはかなわないので、私は地道に活動していきたいと考えている。パンフレット一つ取っても、現場まで足を運んで、コミュニケーションを取りながら 1 人でも 2 人でもという活動を地道に続けていきたいと考えている。1 カ月先、2 カ月先については、まだ私自身も着任して早々なので読めないところがたくさんあるが、町民の皆さんからしっかり勉強させていただき、続けていこうと思っている。

町長：一応受け入れ準備はできているが、人が集まるかどうか分からない。北海道介護福祉学校の寮は現在 36 部屋だが、その半分も入っていない。残りの部屋をきちんと直して使っていなかったのが、クロスが傷んだりひどい状態だった。それをしっかり直して、来てくれる高校生に住んでもらえるようにする。住環境と食事面が重要なので、きちんとするように町が手立てをしている。また、結構視察などにも行っているが、公立高校で立ち上げたところは、初年度から 1 チームができるだけの人数は集まっていない。2 年 3 年かけて 1 つのチームを作り上げていくという感じなので、少し長い目で見ながら、進めていきたいと思う。元気な子供達が町の色々なところで活躍して、栗山高等学校で学んで、その後も北海道介護福祉学校に行ってもらったり、町に残って働いてもらったりという子が出てくるのではないかなという感じがする。すごく可能性の秘めた事業と思うし、波及効果で、栗山高等学校男子野球部が強くなってほしいという思いもある。女子が頑張れば男子も頑張る、人が集まるかもしれない。男女で切磋琢磨していけば良いかなと思う。

町民：栗山駅南交流拠点施設の説明で、防災の発信というのがあったが、災害時の各種情報発信は、おそらく FM ラジオを使って発信するという事だと思うが、例えば安平町の地震の時のように、ブラックアウトになった時に、情報を発信するところは何でもなくても、受けるところがもうすでに受けられない状態というのは起こり得る。そういった時に停電の対策を持って、例えば地域の拠点となるのは公民館なので、公民館だけ発電機をつけて、電気が通るような形にしておけば、受信を受けることができるのではないかな。

町長：FM 局については、どの程度のものになるかは分からないが、ある程度大きい地震であっても、耐震がきちんと維持できるようにする。役場から自動起動付きという、スイッチが入ってなくても、災害時に緊急通報放送をかける時は自動起動するラジオを全戸配付する予定。役場にも基地局のようなものがあるので、栗山駅南交流拠点施設が万が一ダメになった時は、役場の耐震はしっかりしているので、役場がキー局になる。発電機は最低でも 24 時間動くことになっているので、栗山駅南交流拠点施設がダメなら役場から情報発信するということができる。これに取り組むことにしたのは、栗山は色々な災害や防災を町民の皆さんに伝達する手段がないため。長沼町など色々なところに行けば防災無線などがあることが、町の課題になっていた。災害が多くなってきているので、防災無線は必要だということで、色々な比較検討をした。1 番コストを抑えられるのが FM 局のラジオを通じたものであり、災害時にきちんと情報を発信するため、これを選択した。テレビで災害情報が出る場合、栗山とだけ表示される。栗山は南北に広いので、こちらは大丈夫だとか、こちらは大変だという状況が起こるので、こまめに正確な情報を発信したいと考えた。災害時に 1 番不安に思うのは、避難所などに入った場合なので、そこで色々な安心感を与える情報を流すような拠点になってもらいたいし、平時は少し色々な町の情報を流せるような局になれば良いと思う。この間 NHK の連続テレビ小説「おかえりモネ」の劇中で、東日本大震災により、気仙沼市が被害を受け、臨時の災害 FM 局を作った。災害時の時に機能した FM 局を活用し、平時に色々なまちの情報を流していくというやり方を町が見本にしていく。平時から色々な情報を流したいと思っている。例えば子供達がラジオ局に行って、今度学芸会、運動会がありますから皆さん来てくださいねと情報発信したり、商店街でこんなイベントがありますという情報を町に広げて、町民皆さんが集まれるような、色々な情報を知っていただける場所にしたいと考えている。

町民：今年、うちの前の電柱から火が出て下の藪が燃えたのです。これとは関係ないのです

けれど、それで消防車を頼んで電話して来てくれるのに 30 分ぐらいかかったのです。そういうのは、今そこに消防署があるから、あれをずらせとかとていうわけじゃないけれど、そのうち建て替えする時期が来ると思うのです。それで全町の真ん中とは言いませんけれど、30 分もかかるのだったら家だったら燃えてしまうのかなという、去年もうちのが救急車で運ばれた時も、そのくらいかかっているのです。そういうのをどうにかしてほしいなと思います。

町長：難しい問題です。今度、消防庁舎を建て替える時期は、今は栗山、由仁、南幌、長沼それぞれがあるのです。栗山に本部を建設した庁舎があつて、それがもうかなり古くて今言われた通り建て替え時期が、この 7 次の計画期間中になるかどうか、次の第 8 次になるかどうかわかりませんが、建て替えをしなければならないのです。その時に、今これから検討して、どこの位置に建てれば、効率よく瞬時になるべく早く到達できるかというところを考えて建て替えをしなければならないかなというふうに思ひまして、なかなか今の現地で建て替えると、かなり通学路とか、狭い道路だとか入り組んでいますので、消防自動車とかが出るのが、かなり大変な部分もあるのです。ですから、1 つの候補として、栗由線があります。栗山から角田にまっすぐ、役場の前の 4 車線を富士団地から通ってずっと角田の方にまっすぐ抜けてくる由仁まで通じる栗山由仁線があるので、その途中で建てるとか、あるいは、今役場の庁舎も相当な年数経っているので、今よくあるのは役場の庁舎敷地に消防署が併設されるとか、そういうのもあるのです。今のところよりは、かなりまっすぐ大きい道路に出られますので、時間的にどのぐらい短縮されるかは分からないのですけれども、確かに言われる通り、場所も含めてこれから、検討していくことになるかと思います。後はこちらの地区までということになると、多少車の出入り、今言ったように場所を変えることによって、それでも 3 分とか 5 分の話になります。それからこちらの方に来るのが 30 分ってことになると、どういうふうにしたら良いのか。

町民：高齢化社会にも通じることだと思うのですけれども、本庁舎をなるべくこっちにというのはなかなか難しいとしても、例えば中継地点である継立とか、消防車はありますけれども、多分救急車はないです。救急車を 1 台そこに配備するとか、とりあえず処置はできなくても、救急で搬送するということができれば、時間の短縮にはなると思うのです。

町長：連携するとか、広域連携とかで、例えば夕張消防とか、由仁とかそういったところと連携するという方法あります。お金の話と言ったら救急車というのは命に関わることなので、お金がなくても配備しなければならないというふうに思うのですけれども、今は、栗山、由仁、南幌、長沼で 1 台ずつあつて、4 台で対応しているのです。ですから今言われた救急車両は法律で決まっていある程度救急車の中で処置ができなければならないのです。そうすると機器を積むってことになると、今うちの消防車は 6,000 万円から 7,000 万円ぐらい 1 台かかります。ですから、そんなこともあつて、命には変えられないけれども、最低でも細かく町 1 台ずつ用意していこうということなのです。

教育長：連携って、例えば子供なんかの場合、行く病院によって来てもらえない時があるのです。だからそういった、今町長も言いましたけれど、連携の部分は、また政治的なところがあるのだと思うのですけれども、町場の救急車を頼んでも隣の病院に行けないというのが実際ありまして、そういったところの調整というのは先程言いましたように調整的な話し合いというのがあるのだと思うのです。

町民：救急車って、ここでうちに来てもらって、病院探すのに 30 分ぐらいまだいたのです。

それで空知だったら空知しか行かないのか、それとも市町またいでも行けるのか。

町長：大丈夫です。まずは、1 次医療圏といってそれは町の中です。ここでは日赤が拠点になっているのです。でもそういう状況によっては日赤で見れないというところがありますので、そうすると今度はもう少し範囲を広げて、2 次医療圏となると岩見沢市を中心に、いろんな医療機関があり、救急車の中からそこに連絡するわけです。受け入れてくれる病院に搬送するわけです。でもその 2 次医療圏でも処置できない、もっと高度な医療が必要だということになるってことで救命士の方が判断をする場合があるのです。そうすると札幌とかそういったようなところとまずは連絡を取り合うことなのです。ですからそれをしている時間が 30 分かかったとかですね。今回コロナとかいろんな問題ありましたけれど、1 日かかっても受入先の病院が見つからないとか、そこは日本の医療のそういう現場の問題なのかなってところがありますけれど、病院側の受け入れる体制が整っているかどうか、それとうまく病院の先生同士の連携の中で、救急救命士との連携の中でやれる部分とそこは限界があるみたいです。

町民：その時思ったことは、どうせ栗山か、岩見沢行くのなら走りながら連絡できるのではないかなと思って、それが苫小牧行くとか、千歳行くというのなら違うのだけど、そっちは同じ方向に行くんだから、多少は短縮できるのではないかなと思って。

町長：医療法とかいろんなものがあるので、消防の方に確認して、後に回答させていただきます。

町民：電話してから出ていくまで 1 時間ぐらいかかって、かかりつけ医とかに連絡していけるのかどうなのかというのを知りたい。

町民：ここから近いというと、安平に行った方が近いです。継立行く距離で安平に行ける。そうすると栗山の日赤まで行くよりは、早いという話になってしまうのです。だから、その一つのこのエリアだったらこっち行った方が近いよっていうのがあるから、そういうのも、私たち素人なので、消防法だとか救急でどうなっているのか、やっぱり救急ってことは、命に直結していることで呼んでいるわけですから、僕も過労で倒れて継立の時に 2 回運ばれているのですけれども、全部、岩見沢です。日赤に問い合わせしているのだけれども、診れないと言って、岩見沢に行ったのです。

町長：基本の流れはそうです。栗山の中で見なければ次、ここの 2 次医療圏は岩見沢なので、そちらに、さっき僕が言ったように次、札幌という 1 次、2 次、3 次とだんだん高度医療の必要な部分というふうになっていくのです。その中で先程言われたかかりつけの医療機関があればそれは連絡してくれるのではないかなと思いますけれど、よく聞いたりしていますから消防の方で、どこかかかっているところないかいということで。

教育長：それは、輸送すると思います。児童の怪我の場合、そうでした。

町長：走りながら連絡というのはありますよね。留まっているよりは札幌に行くにしたって、少しは近づいてきてから判断した方が良いですよ。栗山中学校で全町の防災訓練をやったのです。そこで具合悪くなって倒れた方がいたのです。そこから、電話して全然受け入れがなくて、日曜日だったものですから、そこに 4、5 時間いました。中学校のところにいつになったら出るのだというぐらいそういうこともあるのです。特に休日の病院、休日の場合は。

町民：休日もそうですけど、夜間とか、夜中とかなった時にやっぱりその早い処置ができて

いれば助かったという場合も出てくるではないですか。

町長：非常に難しい問題なので、まずはいろいろ聞かれたことに対して消防で確認して、まずは現状のことをお話しさせていただきます。

15：37 終了